



大山由郎 議員

問 子育て家庭への支援を強化せよ

答 地域ぐるみの支援を強化する

大山 核家族化への進行により、子育て中の家族にとって、周囲に同じような悩みを共有する仲間が減少しました。現在の子育て家族、地域での状況から誰もが陥るかもしれない「育児不安」、「子育て中の社会的孤立」の予防が大切です。社会的孤立を防ぐための支援グループを立ち上げるだけでは不十分です。そのグループに到達し得ない家族の発見など、ニーズの把握ができるシステムこそ重要であり、社会的に排除されやすい家族に向けては、出産直後からの「出前サービス」により、マタニティブルーの現象に陥りやすい母親の早期発見見守りなどの力動的・重層的な子育て支援の情報発信、ネットワーク力を高めることが急務です。各施設が子育て応援団となり、子育て支援の「とりで」となること、そし

て、これからの児童福祉は多問題家族の中で暮らしている子どもだけを引き離し、児童養護施設などで保護する旧来の支援ではなく、在宅のまま、子どもとその家族を含めた支援が必要です。その

ために「ファミリーソーシャルワーカー」、「コミュニティソーシャルワーカー」などが、地域の中で、家族を支援する活動が展開できるように条件整備をするべきです。



親子仲良く遠足 -はななみ親水公園-

教育長

本町では、妊娠中、出産、育児などに不安のある妊婦さんの把握に努めています。

出産後は新生児訪問を実施して、産後のうつ病質問票により、状況の把握、そして訪問時に子育て支援の情報や、子育て仲間への参加を促したり、各健診時には保健師、心理士などによる相談をおこない、さらに本年度からは、家庭相談員も加わり、早期から相談機関とのつなぎの場を設けています。

「ファミリーソーシャルワーカー」や、「コミュニティソーシャルワーカー」の活動条件の整備は、国、県の方向性を見ながら検討をします。今後は、各機関が連携し、地域ぐるみで子育てができる環境づくりを強力に進めていきます。



山口 邦 政 議員

問 いじめ対策は万全か

答 町全体の問題ととらえて

山口 ①いじめの定義付け、判断基準は。②国、県の再点検を受けての対応は。③いじめの実態調査で学校から上がってくる数字がすべてか。④いじめの存在があることが、学校評価や教員評価にマイナスになることはないか。⑤いじめの実態を表面化させるために、子どもたち、保護者に対する対策は。⑥いじめを受けたときの相談体制は十分か。⑦いじめ問題の対応システムは確立しているか。⑧教育委員会部門だけでなく、町長部局との連携が必要では。条例制定等で、町が地域社会も含めたいじめを許さない姿勢を示す必要はないか。

教育長

①いじめとは、当該児童生徒が、一定の人間関係にあるものから心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているものと定義し、判断基準としています。

②7月の教頭会で再度の研修をおこないました。実施時期が不統一だったアンケートを、基本的な様式に統一して全校毎月実施することにしました。

③子どもたちに対するアンケートや聞き取りからいじめの数字を認知していますので、この数字が全てと考えていません。④十分に成長していない子どもの世界では、いじめはどの学校にも起こりうる問題と考えており、いじめの存在自体で評価がマイナスになることはありません。

⑤子どもや保護者にいじめへの対応の文書を配布し、いじめに対する学校や教育委員会の取組方

針や相談先をお知らせし、協力をお願いしました。⑥学校内の相談員の配置や教育委員会の相談窓口、また県のいじめ相談ダイヤルなどを文書で配布し、周知徹底をはかっています。

⑦青少年問題協議会、地域安全推進会議があり、報告をし、対応の助言をいただいています。⑧学校や教育委員会だけでなく抱え込むのではなく必要に応じて町長部局とも相談、連携し町全体で取り組めます。

町長

いじめは重大な人権問題です。防止条例等々も含め、町が社会全体のいじめを許さない姿勢を示す方法について、内部検討を始めたいと思います。



皆んなでがんばった体育祭 -加美中学校-



門脇幸澄議員

### 問 学校統廃合を急ぐな

### 答 はじめに統合ありきではない

**門脇** 今年2月の「学校規模適正委員会」の答申をうけ、「学校の不均衡と教育環境の整備のため」、小学校では複式学級を生じさせないとの基準を設けて八千代区の小学校の統合を急いでいるように見えます。

しかし、小規模校は一人ひとりに目が行き届き、地域との結び付きも強いが、中規模校には学力の格差が大きく、不登校や非行やいじめなどの問題行動も多い。

①「はじめに統合ありき」で急いでいるのではないが、八千代区の具体案は出ているのか。

②多可町の出生数や児童数も減ってきたが、この7年間のJターンなどの人口増加策や雇用の創出や子育て支援策は十分か。

③統合すれば耐震化を終えた小学校への投資が無駄になる。統合は急ぐべきではなく、子どもを増やす努力を優先すべきだ。

**教育長** ①統合ありきで進めてはならず、具体案は出していない。現在、区ごとに「地域の学校教育のあり方を考える会」を設置して検討中です。

②次世代育成支援対策として、安心して子どもが産める町づくり、独身男女の出会い事業、企業誘致などに町あげて取り組んでいるところです。

③地域住民の皆さんの意見を十分考慮し慎重に決定すべきと考えています。

**耕作放棄地対策について**

**門脇** 我々の先祖から引き継いだ田畑には多面的な機能があるが、農業の後継者不足と高齢化により、多可町には年間20ヘクタール以上の耕作放棄地がある。これらは放っておけば、洪水や災害のもとになる。

①県の耕作放棄地活用総合対策事業があるが、どんな取り組みで、効果は。②耕作放棄地を多可町農林業公社に一部を委託しているが、町が委託制度をつくり、商品作物を栽培して道の駅等で販売してはどうか。

③耕作放棄地活用者への支援を拡充し、町単独で補助振興策をつくれ。



親子で騎馬戦 ー八千代北小学校ー

### 国の動向をみて課題とする

**町長** ①3年間で放棄地の復元と農産物生産が目的です。

②農林業公社としては農地への復興支援は難しいが、一手の引き受けは難しい。

③認定農業者への支援は、有利な制度融資を活用したい。

### 問 本庁舎の建設 町長の考えは

### 答 提言を最大限生かす



高澤榮子議員

**高澤** この7月、町長より諮問を受けていた「本庁舎基本計画策定委員会」が提言をまとめ、町長に提出しました。

●提言は、本庁舎は新築敷地は「中央公民館敷地」を最適としています。本庁舎については、改築、新築、と町長の考えも変化したが、提言への町長の認識は。提言でふれている(仮)生涯学習センターの建設についても問う。●住民への説明はどうなっており、いつおこなうのか。

**町長** 提言はいま、地域協議会に諮問中で、その結果次第だが、提言を最大限生かす方向です。27年度の完成をめざします。

生涯学習センター等、全体計画は間もなく示せると思っています。

**経営企画課長** 庁内で調整後、実施したい。明言できないが、今年度内には。



空き家バンクに登録されている民家 ー鳥羽ー

### 空き家対策への取り組みを

**高澤** 管理されず放置されていたり、老朽化した空き家は、環境や衛生面で周辺に迷惑をかけたリ、犯罪や火災の心配、倒壊等、災害時の危険性もある。

町の現状をどう把握し、どんな対策を考えているか。対策条例制定への取り組みは。

### まずは現況調査から

**防災監・生活安全課長**

管理不十分な空き家としての把握は7件です。区長さんとも相談しているが解決には至っていません。まずは、地元職員で調査し、それに基づき、具体的な検討をしたい。

### トクする節電を

**高澤** 高圧受電施設の電力契約は、前年度の最大デマンド(ピーク時の電力)で決定するが、これをコントロールしてくれるのが、デマンド監視装置です。

基本料金の違いは電気に大きく影響します。監視装置を導入して、同じ節電をするのなら、カシコトクする節電を。

### 検討中です

**宮原長** 加美と八千代プラザ等には導入していますが、効果を検証しながら、他の施設への導入等検討していきたいと思っています。



門脇幸澄議員

### 問 学校統廃合を急ぐな

### 答 はじめに統合ありきではない

**門脇** 今年2月の「学校規模適正委員会」の答申をうけ、「学校の不均衡と教育環境の整備のため」、小学校では複式学級を生じさせないとの基準を設けて八千代区の小学校の統合を急いでいるように見えます。

しかし、小規模校は一人ひとりに目が行き届き、地域との結び付きも強いが、中規模校には学力の格差が大きく、不登校や非行やいじめなどの問題行動も多い。

①「はじめに統合ありき」で急いでいるのではないが、八千代区の具体案は出ているのか。

②多可町の出生数や児童数も減ってきたが、この7年間のJターンなどの人口増加策や雇用の創出や子育て支援策は十分か。

③統合すれば耐震化を終えた小学校への投資が無駄になる。統合は急ぐべきではなく、子どもを増やす努力を優先すべきだ。

**教育長** ①統合ありきで進めてはならず、具体案は出していない。現在、区ごとに「地域の学校教育のあり方を考える会」を設置して検討中です。

②次世代育成支援対策として、安心して子どもが産める町づくり、独身男女の出会い事業、企業誘致などに町あげて取り組んでいるところです。

③地域住民の皆さんの意見を十分考慮し慎重に決定すべきと考えています。

**耕作放棄地対策について**

**門脇** 我々の先祖から引き継いだ田畑には多面的な機能があるが、農業の後継者不足と高齢化により、多可町には年間20ヘクタール以上の耕作放棄地がある。これらは放っておけば、洪水や災害のもとになる。

①県の耕作放棄地活用総合対策事業があるが、どんな取り組みで、効果は。②耕作放棄地を多可町農林業公社に一部を委託しているが、町が委託制度をつくり、商品作物を栽培して道の駅等で販売してはどうか。

③耕作放棄地活用者への支援を拡充し、町単独で補助振興策をつくれ。



親子で騎馬戦 ー八千代北小学校ー

### 国の動向をみて課題とする

**町長** ①3年間で放棄地の復元と農産物生産が目的です。

②農林業公社としては農地への復興支援は難しいが、一手の引き受けは難しい。

③認定農業者への支援は、有利な制度融資を活用したい。



大西 一好 議員

### 問 シカ駆除対策制度について

### 答 工夫の余地はあります

**大西** 1頭1万円の補助金で野生動物捕獲用箱わなを集落に貸し出す事業を実施している。この制度は捕獲すればするほど地元負担が増えるもので施策とは言い難く、専門家に任せるべきではないか。

**町長** ましてはシルバーにお願ひしていた金額です。捕れば捕るほど負担が重くなることについては、工夫の余地があると思います。一集落で



ワナにかかったシカ ー門村ー

無理なら広い範囲の集落対応ということ、大きな埋設地を持つことによつて経費の削減をはかることも考えられます。さらに検討課題とさせていただきますかと思ひます。

### 親子が「共働き」をめぐり

**大西** 子どもの成長発達には、その根っこは親であり家庭である。社会の複雑さに合わせて子育ての難しさ、仕事を持つ親の中に子どもはあり、親

が親として子への働きかけが充分とは言えない。それらを補完するために「親となるために」「親であるために」の学びが必要で、そのしくみを早急にやるべきと考えるが、

### 教育の原点は家庭教育にあります

**教育長** 家庭教育はすべての教育の出発点であり、子どもの基本的な生活習慣や倫理観、社会的マナー、自利心などを育成する上で重要な役割を担っています。社会の変化により、身近な人から子育てを学んだり、互いに助け合うなど地域とのつながりが薄れていきます。学校園やPTA、関係機関と連携して、家庭教育力向上に取り組みます。

扱い危害を加える。命までもとるといふ人権侵害の重罪である。刑事罰は事件の処理で、いじめをなくすことにはつながりにくい。「人権教育」を学校教育の中で時間をかけながらやるべきと考える。

### 命や人権に関わる問題

**教育長** いじめは、命や人権にかかわる重大な問題で子どもたちの動向をしつかり観察し、早期発見に取り組んでいきます。この事件から学ぶことは、

①担任のみで抱え込まない。  
②隠ぺいをしない。  
③家庭との連携をする。  
④教職員がいじめを見抜く資質の向上をはかる。  
⑤関係機関との連携をする。

### 大津中学生自殺から学ぶもの

**大西** いじめは個人の人格を無視し、物として

いじめを学校全体の問題として取り組みます。

### 問 河川改修の積極的な実施を

### 答 土砂撤去に1億5000万円投入



安田 昇司 議員

**安田** 大きな災害を引き起こす一番の要因は、多可町の場合は大雨による河川の増水によるものです。杉原川・野間川をはじめとする各河川では、懸命に昨年の災害復旧工事が実施されてい

ます。今年は梅雨期に大雨がなかったことも幸いして、二次災害を受けずに工事が進み完成したところは見違えるようになっていきます。しかしながら、きれいになっていくのは、災害復旧区間のみで、それを、ちよつと外れると、もう少し堆積土砂の除去や雑草雑木の伐採を徹底したら大雨時に対応できるのにと感じる河川がたくさんあります。河川の改修計画はどのようになっているのか。河川管理は町土防災の基本とも考えるが町長の見解を聞く。



もうちよつと雑草・雑木の除去をー消防署裏の杉原川ー

**町長** 河川の増水が災害の一番大きな要因という認識は同感です。多可土木の関係で土砂撤去は2億3000万円、多可町が1億5000万円、西脇市が8000万円と聞いています。

土砂撤去にはたくさん費用が必要とびっくりもしています。引き続き要望していくとともに、

### 丹波・加美線から交流を

**安田** 県道丹波・加美線のトンネル貫通式で平成26年3月には開通と聞きました。長年の悲願であった東への道路です。多可町の人、特に加美区は買い物、医療圏等が大きく東へも可能となり選

択の余地が増えることは大歓迎です。しかし、どうも東へ流れる話ばかり聞きます。これでは一方通行です。丹波の人に多可町へも来てもらわなければ地域の活性化になりません。その手法として、多可町から地域間交流、集落間交流、文化交流を呼びかけてはどうか。

### 交流は積極的に推進

**町長** 防災や医療面において命をつなぐ道ということだけでなく、な意義を持つ道として、また地域経済の活性化もはかれる悲願の道です。交流については各種団体に推進を依頼していきます。町もそのための協力は惜しみません。



藤本英三議員

問 自主事業の見直しをはかれ

答 最小の経費で最大の効果を得る

藤本 ベルディーホールの自主事業助成として毎年1800万円助成しています。確かに文化・芸能・芸術振興発展には経費がかかることはよく理解をしています。自主事業の決算書を見ると、毎年同じような企画をおこない、事業によっては何百万円の赤字を出しています。住民企画の事業は盛況で出費も多くありません。入場料の安価だけではなく、実行委員会の皆さんの工夫や努力の成果だと思っています。

有名な方々を呼んできて観賞・観劇の企画もよいとは思いますが、住民みんなが関わり町民の大勢の方が楽しんで、文化のすそ野を広げていくのが本来の自主事業です。本町の代表監査委員の決算意見書にも、3年連続自主事業の見直しが指摘されています。「一部の愛好家に対す

る利益提供になり、町民全体の文化向上につながっていない」とおっしゃっています。10月1日の山田錦発祥の地のPRを兼ねた加藤登紀子日本酒コンサートも今年で20回目ですが、毎年平均300万円の赤字が出ており、果たして山田錦のPRになっているかどうか疑問に思います。20回

目を節目として考え直す必要があります。このたび、文化庁より700万円の補助が採択されました。この事業は地域に密着型の文化発信事業と聞いています。その趣旨をふまえて、自主事業の在り方を考えなければなりません。



小学生に好評な わくわくベルディー

町長 文化施設は収益性という考えを持ちながら、未来への投資として地域の文化を育むために芸術振興・人材育成など、長期的な視線で取り組むべきものと考えています。今後住民の皆さんに親しまれるベルディーホールになるよう努力します。

宮崎 「山田錦発祥のまち」という物語性が注目され、中区高田郷周辺では、新たに山田錦の村米制度が生まれました。農家は高い意欲をもっておられ、地域振興につながっていると



辻 誠一議員

問 各事業者の送迎サービスとの連携を

答 前向きに検討する

辻 コミュニティバスの路線の縮小や運賃の値上げの結果、バスを利用してきた少なくとも高校生は、自転車での通学を強いられ、日々病院通いをしなければならぬお年寄りの中には、徒歩や自転車での通院を強いられている方がいます。しかし、バスを利用せざるを得ない住民だけでバスの運行を支えていくことは極めて困難です。町内には、自動車学校の生徒の送迎や介護や医療機関を受診する患者の送迎など多くの交通サービスがあります。各事業者と連携できたならば、各事業者は運行コストの削減がなされ、事業者の採算性も向上。町も維持費用が削減され、交通サービスを維持しやすくなります。交通サービスを維持することで住民の生活の足を確保し、高齢者や移動制約者の積極的な外出を促し、

さらには、その地域に住することの安心感にもつながります。民間事業者の送迎バスとの連携・協力・共用を前向きに検討しては。

町長 多可町のように高齢者や町外通学の高校生等交通弱者が多く、買い物や医療施設への通院に長距離の移動が必須の地域においては、より高い公共交通サービスの水準が必要です。その中で、今提案された、例えば自動車学校の便であるとか、介護施設へ行かれる便など、検討の余地ありと思います。担当課で検討させていただきます。



老健のデイサービスの送迎

# 保健、福祉、医療の町をめざしてカンパイ

## 多可赤十字病院 松浦尊磨院長



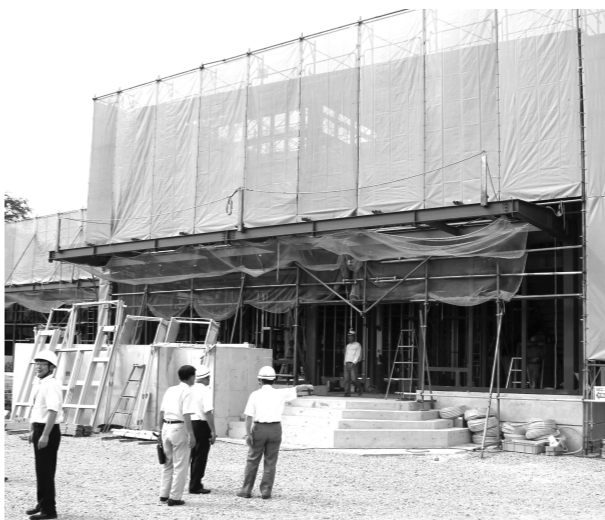
### 総務文教常任委員会

## 学校給食センターの工事順調に進む —管内視察報告—

中町幼稚園北に建設中の新学校給食センターと中町北小学校屋内体育館耐震改造工事の進み具合の視察をおこないました。どちらも計画通り工事が進んでいました。

中町北小学校体育館は天井張りで、館内は吸音装置を施し、9月30日に無事工事完工となり、ずいぶん立派な体育館になりました。

一方、新給食センターは来年3月の完成に向けて順調に工事が進んでお



完成間近の給食センター

り、工事の進み具合は26%でした。1階の内装工事に入っており、アレルギー対応室やチップポイラー室も計画通り工事が進んでいました。

### 木質ハイオマス振興事業

今、新築されている学校給食センターにチップポイラーを導入しようとしているので、なごみの里・農林業公社のいちご園のチップポイラーとチップ生産の北はりま森



きれいになった体育館  
—中町北小学校—

林組合等にも視察をおこないましたが、これ以上チップポイラーの導入や規模拡大することは財政的にも厳しくなるので、今後、継続事業として取り組むのには慎重に計画しなければなりません。

### プールの監視体制について

7月25日の臨時議会において、中央公園プール・八千代海洋プールの監視員が少ないのではな

いか、と議員から緊急質問があり、早速現場を視察しました。  
両プールともNSIへ監視業務委託をされており、当日もその契約書・仕様書に基づいて問題なく監視をされていました。  
ただ、お盆の期間中は利用者が1日70人位多く見込まれるので、監視員を1人増加します。  
ただし、NSIの業務委託者には、警備業の認可を受けていないので、早急に取得するように指導をしました。

本年4月に多可赤の院長として赴任され、住み続けられる町をめざした地域医療体制づくりをされている、松浦院長取材しました。

### 医者を目指されたのはいつ頃からですか

広島県の瀬戸内の小さな島に生まれました。島ではお年寄りだけが残され、健康を害しても辛抱している人が多く、本州の病院に抱き込まれた人たちの多くは二度と島に帰ってきませんでした。お寺の次男坊でしたが、そんな光景を見ていて来世のことより今生きている人の病気を治す人になりたいと思いはじめたのでしよう。

### 地域医療に向わせたのは何ですか

大学病院で外科の研修を経て、総合医になりたいという思いと地域医療に携わりたいとの思いで、長野県の佐久病院に勤務することになりました。この病院の若月院長は、



松浦尊磨院長

病気の重症化をもたらす「潜在疾病」の早期発見のために、農村の人たちへの出張診療をしておられました。農村を巡回し農家の人の健康診断や健康相談、住民の健康管理の充実に向けた行政の取り組みで、県内を専用バスに揺られて、何日も泊りがけの巡回が始まりました。大学病院にずっと勤務していたら医学の物差しでしか地域社会を見られなかったかも知れませんが、いろんな職種で役割を学べ、幅広い視野が持てたかなと思います。

### 淡路島の五色町での取り組みが有名ですが

診療所に赴任しましたが、住民の「医療観」に古いものがありました。住民は注射で一発勝負するような「健康観」しか持っていない人も少なくありませんでした。このままではいけないと思い在宅ケアの充実のために、行政、福祉、医療関係者の集う「在宅ケア連絡会」を立ち上げました。しかし、相談を受けるのは重症者が多く、早目からのケアが必要と思えば高齢者や住民健診を、2年間受けていない人に対するの全戸訪問で健康診断をしました。

農作業に出ている人には、田んぼのあぜ道で健診をしたこともありです。その後、有線TVを利用して診療所に映像を送れる医療システムの導入や、健康診断結果や医療機関での健診結果などを書き

込んだICカードシステムを導入しました。

### 多可町でどのような地域医療を目指されていますか

今までの経験を元に多可町でも、日赤だけでなく他の病院や地域で利用できる電子カルテシステムの構築や、在宅患者さんや介護施設などからの映像を通して療養支援できるシステムができればと思っています。介護施設、介護事業所、社協、医療機関、行政などの間でネットワークを形成し、その中で医療とか保健とか、福祉とかの問題を検討し、解決方法を探っていきたくと思っています。在宅介護は生活支援策が必要で、医療介護だけでは生活を支えきれません。高齢でひとり暮らしになっても、ここに住み続けられる町にしたいと願っています。